



生涯学習だより

2022/ 3月号

ピウカ

発行
教育委員会

公民館講座

天文の不思議・ふしぎ

長い冬が終わり、少しずつ春を感じる季節に天文を一緒に学んでみませんか。

天文を学ぶ 3月15日(火)

参加無料

天文の専門家・なよろ市立天文台職員が解説する

— 2022年に注目される天文現象 —

- 時間 午後6時30分から午後7時30分(1時間程度)
- 会場 文化会館COM100図書室
- 定員 15人 ※夜間のため幼児・児童は保護者同伴で参加ください。

- ★ 参加希望の方は、3月14日(月)までに電話でお申込みください。
※定員になり次第、申込みを終了しますのでご了承ください。
- ★ コロナ感染予防のため、マスクを必ず着用してご来館ください。
- ★ 感染状況によっては中止する場合があります。

【問合せ先】美深町公民館（電話番号・防災情報端末機 2-1744）

美深町史

天塩日誌と郷土

安政4年(1857)、幕府の命を受け蝦夷地の内部調査のためアイヌを道案内に天塩川を遡り、旧暦の6月12日、本町に到達した松浦武四郎一行は恩根内に一泊しています。「天塩日誌」によるとオクルマトマナイのエカシテカニの家で一夜を宿したとき、アイヌの妻はウバユリの団子を作って、ホウの葉に盛って差し出し一行をもてなしています。

武四郎はこの様子を歌にしています。また、この夜「当地方に伝わる唄を聞かせてほしい」というと、妻は「曲のみ伝えられる」と答えて五弦琴を弾いています。十指でかき鳴らす美しい音色に、一首たわむれて傍らの柱に書き記したと日記に書かれています。松浦武四郎は探検家であり、文豪であり、さらに俳人でもありました。旅先で見聞した様子を歌にしています。本町の風習や生活状況を歌にした最初の人であり、「天塩日誌」は唯一のピウカ(美深町)の存在を世の中に知らせた書物といえます。こうした武四郎の功績を後世に伝えるため、びふかアイランド内には町の文化史跡として「松浦武四郎踏査の地詩碑」が建立されています。この詩碑には、武四郎が手厚いもてなしを受けた感謝として送った詩が刻まれています。



松浦武四郎踏査の地詩碑



郷土資料室の武四郎コーナー

また、COM100郷土資料室には、武四郎コーナーを常設展示していますので、お立ち寄りください。(入館料は無料です。)

【参考文献】美深町史(平成23年刊)